

Study1 Plan 模擬国連会議とは

今回のスタディプランでは、模擬国連会議とは何かを説明します。まず、模擬国連会議では具体的に何をするかを説明します。次に、模擬国連会議の大まかな流れを説明します。

1. 模擬国連会議とは

模擬国連会議では、「国連会議」を「模擬」します。

「国連会議」は、国連に加盟している国の政府代表が集まり、ある議題(国際問題)を話し合う場です。そして「決議」という議題に対する解決の指針をまとめることが国連会議の目的です。

「模擬」とは、みなさんが政府代表になりきって議題を話し合うということです。

「政府代表になりきって議題を話し合う」ということは、みなさんの持つ「個人」の視点からではなく、担当国政府という「国」の視点から議論を行なうことを意味します。

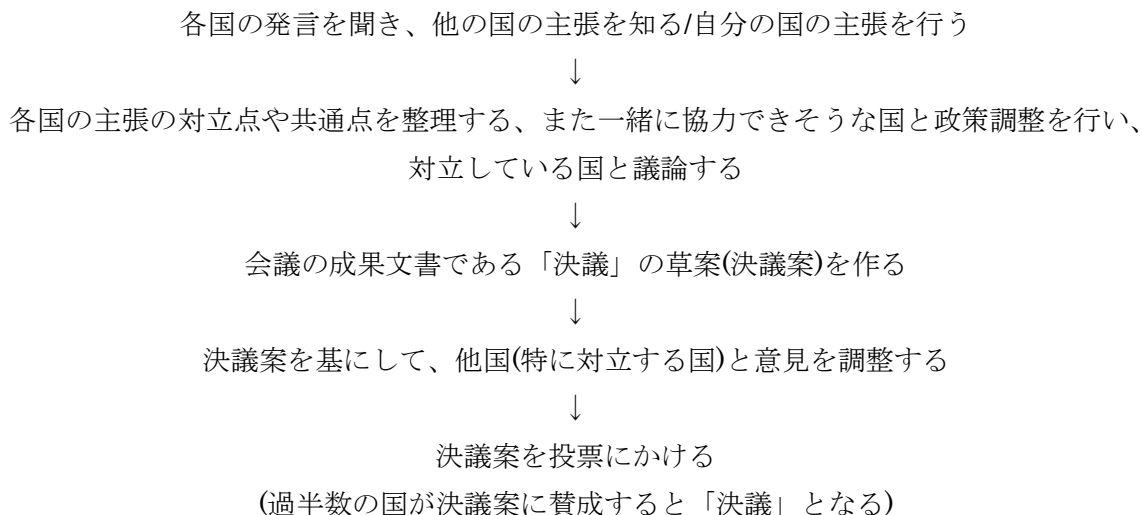
「「国」の視点から議論を行なう」とは担当国にとって最も利益になる方法で、議題を解決しようと試みることを意味します。加えて、ゼロから議題を話し合うのではなく、過去の議論やすでに行なわれている議題に対する解決策を踏まえた上で、みなさんが議論を進めることも意味します。

従って、模擬国連はディベートとは異なります。ここでいう「ディベート」というのは、議論に勝ち負けがあり、相手を論理でねじ伏せれば勝ちとなるゲームを指します。模擬国連会議では、自国の主張をするだけでなく他国の主張にも耳を傾ける必要があります。なぜならば、相手を打ち負かすのではなく、できるだけ多くの国が納得できる形で議題に対する解決策をまとめることが、模擬国連会議の目的だからです。

確かに、他国を論理的に打ち負かすことは、その他国を納得させる材料の1つにはなりません。しかし、大使となるみなさんの最終的な目標は、担当国にとって最も利益になる形での議題解決の方法を、できるだけ多くの他国の支持を得て決議として採択することです。

「できるだけ多くの他国の支持を得る」には、他国を論破するだけではなく、他国の主張も積極的に取り入れることや担当国の主張が他国にとっても利益になることを説明する必要があります。これは、実際の国連会議で行なわれている議論でもあります。つまり、他国の主張という担当国とは異なる視点を理解した上で、決議という文書にお互いの主張をまとめ上げていくことが必要になります。

2. 会議の簡単な流れ



3. 会議の議事進行¹

ロールコール/ Roll Call(出席確認)

議長が国名を読み上げ、出席国を確認します。



議題採択/ Setting the Agenda

今回の会議においては、議題は予め1つしか設定されていないので、この議題を話し合うことに反対の大使がいなか確認するのみとなります²。



討議開始/ Debate

どちらの討議形式をとるかは
そのつど議場の大使が提案・
決定していく³。

〔公式討議/ Formal Debate〕

討議が始まったら、まず議長が公式発言(スピーチ)を行いたい国を募集し、スピーチを行う国の順番のリストを作ります。そのリストに従って、各国のスピーチを順番に行っていきます。

公式発言の間は、各国大使は席についていなければなりません。

〔非公式討議/ Informal Debate〕

非公式討議には2種類のスタイルがあります。

①Moderated Caucus

議長が各国大使を順番に指していくので、各国大使は自分の席で、簡潔に自国の方針を述べていきます。

②Unmoderated Caucus

会議の休憩です。自由に席を立てて交渉したい国のところへ行ったり、スピーチの準備をしたり、決議案を作成したり、各自が自由に時間を使えます。

¹ 本年度の議事進行ルールは、基本的にNY大会で採用されているものとします

² 大会によっては、複数提示されている議題から投票でどの議題を話し合うかを決定する場合があります

³ まれに議長が決定する場合があります。これを「議長裁量」といいます



討議の終了/Closure of the Debate

全ての公式発言(スピーチ)が終わったら、自動的に投票行動に移ります。
または、もう十分に討議を尽くしたと議場の大使が判断したら、討議を打ち切り、投票に入ります。



投票/Voting

決議案へ投票を行います。各国は、決議案に対して、賛成(Yes)、反対(No)、棄権(Abstention)の票を投じ、過半数の大使が決議案に賛成すると、その決議案は「決議」となります。



会議終了

以上で今回のスタディプランは終了です。大まかな模擬国連会議の流れは把握できたかと思います。次回のスタディプランでは、リサーチと呼ばれる会議に向けた準備の説明をします。

文責：JCGC